

「赤尾(あかお)の道宗(どうしゅう)」

その一

旅先で、弥七(やしち)はふしぎな夢を見た。どんな夢か?それはお坊さんが「親に会いたかったら、蓮如(れんによ)さんのところに行け」といった、たったそれだけの夢や。実は、弥七は九州の筑紫に親をもとめて旅をしておったんや。でもな、おかあはんは弥七が四つとき、おとうはんも十三のとき死んでなざるのや。さみしかつたんやろな、恋しかつたんやろな、親子の鳥が遊んでるのを見ても、泣いてたというぐらいやから。それで、何でも筑紫の羅漢寺(らかんじ)には、たくさん羅漢さんがあり、そんな中に親と同じ顔があるときいたもんやから、親が恋しゅうて、いてもたってもいられなくなって旅に出たんやで、この夢や。

「蓮如さんというたら、たしか京都の本願寺(ほんがんじ)のお坊さまのお名前や...。なんで蓮如さんのところに行ったら、親に会えるんや?」弥七は正直まよった。けど、なんや大きなものに押されるように筑紫行きの足を、京都の本願寺に向けた。親に会いたい一心やな。さいしよ、蓮如さんのご法話(ほうわ)を聞いても、よわからんかった。わからんけど、蓮如さんがうれしそうに阿弥陀(あみだ)さんの話をなざるのを見ているだけで、なんや動くこともできんようになった。なんとそれから三日のあいだ、席を立たんで聞いたんや。そんな弥七に気づいた蓮如さんは、やさしくほほえみかけられ、お側によべれたんや。弥七は、親のいないさみしい胸の内を、蓮如さんに聞いてもろうた。蓮如さんは涙ながらに語る弥七の手を取り、「つらかったろう、さみしかつたらう。でもな弥七

よ、おまえさまが、さみしさに泣いているとき、いつでもどこでもどんなときでも、おまえさまのところに来て、いつしよに泣いていてくださっているのが、みほとけさまぞ。弥七よ、おまえさまのお母さんもお父さんも、ほとけさまになつて、おまえさまのところに来てくださるぞ。そのほとけさまこそ、まことの親ぞ。ナンマンダブツの親さまぞ。ナンマンダブツ。よかつたのお、弥七!」弥七は、胸をおおっていたさみしさが、すーっとはれていくようやった。『親に会いたいと思うたらナンマンダブツ。いやいや、その前に、この弥七にナンマンダブツの親が来ていてくださっているのじやつた。親にだかれていながら、親をさがしておったのお』この弥七こそ、越中(えつちゅう)国(こく)五箇山(ごかやま)・赤尾(あかお)の富山県東礪波郡上平村(とやまけんひがしとなみぐんか

みたいらむら)の行徳寺(ぎょうとくじ)を開いた道宗(どうしゅう)さんや。~~~~~**仏教(ぶつこう)子ども新聞(こどもしんぶん)614号**福岡教区志摩組(しまぐみ) 海徳寺(うみとくじ) 住職(しゆしやく) 松月博宣(まつきひろのぶ)~~~~~**阿弥陀(あみだ)さまって本当(ほんとう)にいらっしゃるの(の)かな?****よし日の雲(う)に 隠(かく)るとも 下に闇(く)なきごとく(ごと)なり(なり)り(り) 【正信偈(せいしんぎ)意識(いしやく)】**日中(にちちゆう)、空(そら)のうえには太陽(たいよう)が光(ひかり)輝(かがや)いています。私たちは、太陽(たいよう)の姿(すがた)をみてその存在(そんざい)を確認(かくにん)することが出来ます。でも、曇(曇)りの日には太陽(たいよう)の姿(すがた)をみることは出来(出来)ません。確認(かくにん)することが出来ないから出来(出来)ないから太陽(たいよう)が無(な)いわけではありませ(あり)せん。どんなに曇(曇)っていても、隣(となり)に居(い)る人や自分(じぶん)の姿(すがた)をみて確認(かくにん)できるという(いう)ことは、太陽(たいよう)のはたらき

である光(ひかり)が間違(まちが)いなく私の元(もと)に届(届)いている証(あかし)であり、光(ひかり)が届(届)いているという(いう)ことは太陽(たいよう)が私(わたし)を照(あ)らしてくれている証(あかし)なのです。阿弥陀(あみだ)さまのはたらきは、「南無(なんぶ)阿弥陀(あみだ)仏(ぶつ)」という(いう)はたらきとなって私たち(わたしたち)の元(もと)に届(届)けられています。届(届)いているからこそ、私たちは南無(なんぶ)阿弥陀(あみだ)仏(ぶつ)を称(な)えさせていただくことが出来(出来)ているのです。確認(かくにん)しようと思(おも)っても、阿弥陀(あみだ)さまをみることは出来(出来)ません。たとえ確認(かくにん)できなくとも、「南無(なんぶ)阿弥陀(あみだ)仏(ぶつ)」のはたらきが私(わたし)に届(届)いていてくださることで、阿弥陀(あみだ)さまの存在(そんざい)を知(し)ることが出来る(出来る)のです。**浄土(じやうど)真宗(しんそう)本願(ほんがん)寺派(じ)の少年(しょうねん)教化(けわ)活動(かつどう)は、博多(はくた)・万行(まんぎやう)寺(じ)で七里(しちり)恒順(こうじゆん)和上(わじやう)の指(さし)導(どう)のもと、明治(めいし)13年(ねん)(1880年)に始(はじ)まった少年(しょうねん)会(かい)・少女(しょうじよ)会(かい)にその淵(ゆ)源(げん)を見(み)ることが出来ます。(足利(あしたし) 一之(いち))**

わたしも

「さんわ」で建てました

日出店

日出町藤原 手嶋 大様



以前より、お墓の墓地探しをしております。

が、その時は、仕事も忙しく今年の一月に妻の父が他界しました。うちもそろそろ考えた方がいいなあ。ーと妻と話し合っで、「さんわ」さんに墓地を探してもらおうことにしました。

幸い、歩いて行ける地区墓地を探していただいたので、とんとん拍子に話が決まり、お墓を建てることができました。

今は、仏様がいないので 寿陵墓(生前にお墓を建てる)ことが長寿を授かる縁起の良いこととされている)になります。お墓もできたことで一安心です。「さんわ」さんお世話になりました。



森町店

大分市中戸次 桑原 様



三箇所にあつた先祖の墓



みたくらむら)の行徳寺(ぎょうとくじ)を開いた道宗(どうしゅう)さんや。~~~~~**仏教(ぶつこう)子ども新聞(こどもしんぶん)614号**福岡教区志摩組(しまぐみ) 海徳寺(うみとくじ) 住職(しゆしやく) 松月博宣(まつきひろのぶ)~~~~~**阿弥陀(あみだ)さまって本当(ほんとう)にいらっしゃるの(の)かな?****よし日の雲(う)に 隠(かく)るとも 下に闇(く)なきごとく(ごと)なり(なり)り(り) 【正信偈(せいしんぎ)意識(いしやく)】**日中(にちちゆう)、空(そら)のうえには太陽(たいよう)が光(ひかり)輝(かがや)いています。私たちは、太陽(たいよう)の姿(すがた)をみてその存在(そんざい)を確認(かくにん)することが出来ます。でも、曇(曇)りの日には太陽(たいよう)の姿(すがた)をみることは出来(出来)ません。確認(かくにん)することが出来ないから出来(出来)ないから太陽(たいよう)が無(な)いわけではありませ(あり)せん。どんなに曇(曇)っていても、隣(となり)に居(い)る人や自分(じぶん)の姿(すがた)をみて確認(かくにん)できるという(いう)ことは、太陽(たいよう)のはたらき

である光(ひかり)が間違(まちが)いなく私の元(もと)に届(届)いている証(あかし)であり、光(ひかり)が届(届)いているという(いう)ことは太陽(たいよう)が私(わたし)を照(あ)らしてくれている証(あかし)なのです。阿弥陀(あみだ)さまのはたらきは、「南無(なんぶ)阿弥陀(あみだ)仏(ぶつ)」という(いう)はたらきとなって私たち(わたしたち)の元(もと)に届(届)けられています。届(届)いているからこそ、私たちは南無(なんぶ)阿弥陀(あみだ)仏(ぶつ)を称(な)えさせていただくことが出来(出来)ているのです。確認(かくにん)しようと思(おも)っても、阿弥陀(あみだ)さまをみることは出来(出来)ません。たとえ確認(かくにん)できなくとも、「南無(なんぶ)阿弥陀(あみだ)仏(ぶつ)」のはたらきが私(わたし)に届(届)いていてくださることで、阿弥陀(あみだ)さまの存在(そんざい)を知(し)ることが出来る(出来る)のです。**浄土(じやうど)真宗(しんそう)本願(ほんがん)寺派(じ)の少年(しょうねん)教化(けわ)活動(かつどう)は、博多(はくた)・万行(まんぎやう)寺(じ)で七里(しちり)恒順(こうじゆん)和上(わじやう)の指(さし)導(どう)のもと、明治(めいし)13年(ねん)(1880年)に始(はじ)まった少年(しょうねん)会(かい)・少女(しょうじよ)会(かい)にその淵(ゆ)源(げん)を見(み)ることが出来ます。(足利(あしたし) 一之(いち))**

お寺様による閉眼供養



閉眼供養後 一箇所に解体整理



私のところのお墓は、山の上(うへ)にあり、お参りに行くのも大変(たいへん)でした。数年前(すんねん)前から何とかしなければと思(おも)いながら年月(としづき)が経(た)ち、そのままになっておりました。ご近所(ごきんじよ)で随分(ずいぶん)前から知(し)っている方がお墓(はか)やさんに勤(こ)められているというので、相談(さうだん)をしました。とりあえず、現場(げんば)を見(み)てもらいました。墓(はか)じまいにはお寺(てら)様(さま)に来て頂(いただき)いて閉眼(へいがん)供養(くやう)のお経(きやう)をあげてもらい、その後(そののち)、解体(かいたい)整理(せいり)することや、幾(いく)らかか(か)るか見(み)積(つ)りなど、聞(き)かしてもらいました。費用(ひようぎん)は思(おも)っていた半分(はんぶん)以下の値段(だんぱん)でした。それで、すべてお願(ごん)い(い)しました。この歳(とし)なので、あと何年(なんねん)お守(まも)りができ(でき)ようかと心配(しんぱ)していましたが、これ(これ)でホッ(ほ)と安心(あんしん)しています。長男(ながなん)も喜(よろこ)んでくれました。「さんわ」さん ありがとう(ありがとう)ございました。